

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
単元名	整数と小数 5 → 4	比例 4 → 4		どんな計算になるのかな? 2 → 1	分数と小数, 整数の関係 6 → 5	平均 5 → 5	四角形と三角形の面積 11 → 10	割合 9 → 9	変わり方調べ 1 → 1	角柱と円柱 7 → 7	
	直方体や立方体の体積 8 → 7	小数のかけ算 9 → 8		図形の角 6 → 4	分数のたし算とひき算 11 → 10	単位量当たりの大きさ 10 → 10		帯グラフと円グラフ 8 → 8	正多角形と円周の長さ 9 → 9	もとにする大きさに注目して 2 → 2	
		小数のわり算 9 → 8		偶数と指数, 倍数と約数 12 → 10	考える力をのばそう 2 → 1				プログラミング 2 → 2	考える力をのばそう 2 → 1	
			小数の倍 5 → 5	プログラミング 2 → 2	算数で読みとこう 2 → 0					算数で読みとこう 2 → 0	
時数減の方向性	【整数と小数】 ・整数と小数を10倍や1/10にするときの位や小数点の位置が移動することを図や式を用いて同時に考えることで削除 【直方体や立方体の体積】 ・公式を適用して体積を求める場面は家庭学習と連携することにより削除	【小数のかけ算】 ・小数のかけ算の計算技能の習得にかけている場面を家庭学習と連携することにより削減 【小数のわり算】 ・小数のわり算の計算技能の習得にかけている場面を家庭学習と連携することにより削減	【合同な図形】 ・家庭学習と連携し、作図の技能の習得にかけている分の時数を削減	【図形の角】 ・家庭学習と連携し、学習内容の定着を確認するための時数を削減 【偶数と指数, 倍数と約数】 ・家庭学習と連携し、技能の習得にかけている分の時数を削減	【分数と小数, 整数の関係】 ・家庭学習と連携し、学習内容の定着を確認するための時数を削減 【分数のたし算とひき算】 ・家庭学習と連携し、学習内容の定着を確認するための時数を削減		【四角形と三角形の面積】 ・家庭学習と連携し、学習内容の定着を確認するための時数を削減				5年のふくしゅう 5 → 0

カリマネ要領へGO!



評価規準へGO!



単元情報	単元名										
	整数と小数	比例	小数のわり算・小数の倍	図形の角	分数と小数, 整数の関係	平均	四角形と三角形の面積	割合	変わり方調べ	角柱と円柱	
	ゴールの姿	・整数と小数の仕組みは同じだね。 ・小数の数の仕組みを考えると、整数の仕組みを考えると同じように、表や式に表したね。 ・0から9の数字と小数点を使うと、どんな大きさの小数でも整数でも表すことができるって、便利だね。	・かけ算で求めていた場面を見なおしてみると、数量の変わり方に特徴を見いだすことができるね。 ・ある数量を決めると、もう一方の数量がきまる関係が見つかること、日常のいろいろなことを計算で考えることができるようになるね。	・わり算の性質を使ったら小数のわり算の高を求めることができた。分数のわり算と同じように計算ができて便利だね。分数のわり算でも使えるのかな。 ・比べる量や基準にする量が小数でも、同じように倍を求めることができたね。 ・小数のかけ算の逆を考えるといいね。	・形や大きさが違っても、直線の数が同じなら、角の大きさが同じになったね。 ・三角形の内角の和をもとにすると、多角形の内角の和を求めることができるね。	・分数をわり算の高と考えることで、すべてのわり算の結果を数で表すことができるようになったよ。 ・整数や小数と同じように、分数でも何倍かを考えることができることが分かったよ。	・1人分や1個分などの量を求めるわり算と同じように考えると計算で平均を求められるね。 ・日常生活で、より信頼できる値を求めるために、平均を用いると便利だね。	・形の特徴に注目して、これまでに面積を求めることができる形に変えられ、いろいろな図形の面積を求めることができるようになったね。 ・底辺が決まって、高さが決まると面積が決まる図形という見方もできるようになるね。	・割合を使うと、数がそろっていないと比べてみる場合でも、2つの量の関係どうしを比べることができて便利だね。 ・百分率や歩合などの、割合の表し方があったけど、他の表し方もあるのかな。	・図や表を使うと、二つの数量の変化の仕方のきまりを見つけやすいね。 ・見つけたきまりを基に、簡単な式を立てると、数が大きくなって計算で答えを求めることができるね。 ・きまりから、他の場合も考えてみたくなったね。	・底面に注目すると、形で角柱の名前はきまり、関係は平行で合同になっているね。 ・面の形やつながり方、辺の長さなどに注目すると、直方体や立方体と同じように展開図がかけられるね。 ・直方体や立方体と同じように、体積も求められるのかな。
備考	・小数を唱えるだけでなく、実際の大きさや量のイメージをつくれることができるように、数直線や位取り表を使ったり、0.1の何個分と見たり、多面的に捉えられるようにしたい。	・かけ算の場面で使ってきた数直線の図を、比例の関係と統合し、比例の関係を活用できるようにしたい。 ・基準量をどこにおいても、見つけたきまりが成り立つことを確かめていくことを大切にしたい。	・除数が小数の場合でも、整数のときと同様に考えられることを見いだしたい。 ・除法を、除数を1とみて基準量を求める計算という見方ができるようにしたい。	・図形の角の大きさに着目することで、三角形や四角形の内角の和を帰納的や演繹的に考えて説明する活動を大切にしたい。	・分数の意味と除法の結果を関連付けて考えることで、小数で表した結果と比べられるようにしたい。整数や小数と統合的に見ること、分数倍の意味などを考えられるようにしたい。	・ならず操作としての平均の求め方を考え、測定値の平均の意味につなげたい。実際は複数回の測定値について平均することで、真の値に近い値を得ることができることに気付けるようにしたい。	・図形を三角形などを組み合わせた形や一般の四角形などの面積の求め方を考え、測定する活動を大切にしたい。既習の面積の求め方の考えを活用することを繰り返したい。	・全国学状でも課題が示されていて、言葉と図と式を関連付けられる活動を取り入れて、説明する場面を仕組みたい。	・式の中にある二つの数量の対応や変化の解き方について、表などを用いて調べたり、言葉の式に表したりする活動を大切にしたい。6年での文字を用いて数量の関係や法則を簡潔かつ一般的に表すことにつながることを意識したい。	・底面や側面の形により分類し、既習の直方体や立方体を振り返り統合的に見ることができるようになりたい。そのことで、直方体や立方体も四角柱とも見られるようにしたい。	
ゴールの姿	・これまでの測定と同じように、単位の大きさを決めると数値で比べられるね。 ・辺の長さに注目して計算で大きさを求めるのは、面積のときと同じだね。 ・直方体や立方体以外の体積も求め	・基準にする大きさ(かけられる数)の何倍か(かける数)とみると、整数のかけ算も小数のかけ算も同じようにとらえることができるね。 ・小数でも、かけ算の性質が役に立つんだね。わり算のときも、わり算の性質が使えるのかな。	・三角形の形と大きさが決まる条件を使ったり、3つの頂点の位置を決めることができること、合同な三角形をかくことができるね。 ・辺の長さや角の大きさを使って、図形どうしの関係を調べることができるね。	・整数は、偶数と奇数の2つの仲間に分けられて、式にすることで性質が分かったよ。 ・日常生活の問題を解決するのに、倍数や約数を使うと便利だね。 ・整数にはいろいろな性質があったけど、他にもどんな性質があるのかな。	・分母がちがう分数でも、分母をそろえて通分すると、たし算やひき算することができたよ。 ・大きさの等しい分数を比べることが、分数の性質が見つかったね。 ・分数のかけ算やわり算はどうやってできるのかな。	・二つの量の関係に着目すると、単位量当たりの大きさを考えることができるね。 ・単位量あたりの大きさを使って比べると、混み具合や速さも考えることができるね。 ・割合で考えられる場面はまだ他にもありそうだね。		・目的に合わせて、表や棒グラフ、折れ線グラフと一緒に、帯グラフや円グラフを使い分けると特徴を読み取りやすくなったよ。 ・PPDACなどの統計的な問題解決の方法を使うと、身の回りの問題を解決できるようになりそうだね。	・正多角形と円は全く別の図形に見えるけど、円と組み合わせるといろいろな特徴が見えてきたよ。 ・円は、直径を決めることで、円周の長さが決まるね。それは2つの長さの割合が、どんな大きさの円でも等しいからだね。		
備考	・公式を覚えることではなく、公式化の過程を丁寧に扱い、単位とする体積の何個分であるのか。また、個数を求めるときに辺の長さを活用できるようにしたい。	・既習の整数の乗法と同じように考えればよいことや乗法の性質を基に計算の仕方を、子供が見いだす過程を大切にしたい。	・合同な図形の作図の技能に終了するのではなく、合同の見方が、この学年の図形領域全てに通じることを意識したい。構成要素に着目することで、図形の決定条件を見いだしたい。	・偶数や奇数を機械的に覚えるのではなく、乗法や除法を用いて、観点を決めて類別する過程を大切にしたい。 ・乗法や除法に着目したことから、倍数や約数の全体を1つの集合として見る考え方を大切にしたい。	・複雑な計算を指導するのではなく、分数の意味や表現に着目し、計算の仕方を考えることや分数の計算を今後の学習へ活用できるようにすることを重視したい。	・三つ以上のものを比べたり、いつでも比べられるようにしたりするためには、単位量当たりの大きさの考えを用いて比べることができるようにしたい。		・子供自身が、PPDACなどの統計的な問題解決ができるようになることや割合でデータを見ることで、問題解決しやすくなることに気付けるように目的をはっきりさせて単元を構成したい。	・正多角形と円を関連付けて合同という視点で図形を見ることにしたい。 ・円周率は3.14と覚えるのではなく、測定などを通して、帰納的に考えることを大切にしたい。		